

# 東亞植物雜報 (十八)

正宗 嚴 敬

(昭和十五年五月十日受理)

## Miscellaneous Notes on the Flora of the Eastern Asia XVIII.

Genkei MASAMUNE

135. シタキサウ、余はさきに、臺灣産のシタキサウはみなタイワンシタキサウだとの見解を no. 65 に於て發表しておいたが、昨年六月大屯山麓の竹仔湖でシタキサウを採集する事が出来たので、臺灣に二種共産する事が明になったので、此所に訂正發表する事にした、之等二種の區別點をあけると、

莖に逆毛が二列ある、花は 10 筒ばかり繖房状につき、長さ 1.5 cm 内外、萼片は卵形にて先端やや尖り、外面短毛を敷く、

タイワンシタキサウ

莖に短毛散生、花は 3 筒ばかり繖房状につき、長さ 3 cm 内外、萼片は卵形、先端やや丸形、外面はやや無毛

シタキサウ

*Stephanotis japonica* MAKINO, in Tokyo Bot. Mag. VI. p. (53) (1892); MASAMUNE, Fl. & Geob. Yak. p. 379 (1934).

*Nom. Nippon.* Sitakisō.

*Hab.* Formosa: Tikusiko, Sitisei-gun, Taihoku-syū, VI. 4, 1939 (leg. MASAMUNE no. 2634 in Herb. T.)

*Note.* The species is new to the Flora of Formosa.

137. ホウザンツバキ、本種は葉が長く、葉縁の鋸齒細かく、花は小さく、花瓣の外面に特に毛の多いツバキの一種で、臺灣の中部、北部に僅かに産する事が知られて居たが、琉球列島に産する事も明らかになつて來たのに此所に報告する事にした。

**Nom. Nippon.** Amiba-syarinbai.

**Hab.** In rocky place between 1000-1200 m, Mt. Seisui-zan, Karen-gun, Karenkō-tyō, IX, 8, 1939 (leg. T. NAKAMUNRA no. 365 Typ. in Herb. T.)

144. **エフミヤクタロコガシ**、前種と同じ所で中村君が採集された、ナラ属の一種で、ヒラギガシに近縁の物であるが、葉が著しく皺曲し、鋸歯は單なる側脈の先端が突き出た程度のもので、ヒラギガシのヒヒラギ状の葉とは全く異つて居る、又タロコガシにも極めて近縁の物であるが、枝に毛がなく葉は大形で皺曲がひどく裏面に毛が殆どなく脈の明瞭な事等の諸點で區別できる、併し天長山と芥來溪との間で故工藤教授と森氏により採集された本種に似た一標品 (2020!) を見ると、それは明に本種とタロコガシとの中間に来る物である事が認められるので、余はこれをタロコガシの一變種と考へ次の學名の下に發表する事にした、本變種は基本種と同様明な硬葉樹であり、これにより臺灣に又本生活型の物が加はつた事になる。

**Quercus tarokoensis** HAY. var. **rugosa** MASAMUNE var. nov.

Folia ovato-elliptica, elliptica vel ovata saepe oblique ovato-elliptica coriacea rugosa 6×3, 6×4, 8×4.5 7×5 cm magna, apice acuta, obtuso-acuta vel acuminata, basi obtusa vel leviter cordata, venis et venulis subtus prominente elevatis supra haud elevatis, margine aristato-serrulata, pagine utraque glabra sed ad costas vix stellato-tomentosa.

**Nom. Nippon.** Yōmyaku-tarokogasi.

**Hab.** Formos: Mt. Seisui-zan ca. 1500 m, Karen-gun, Karenkō-tyō IX, 8, 1939 (leg. T. NAKAMURA no. 3610 Typ. in Herb. T.)

145. **タイワンシモバシラ**、前種同様中村君が清水山で得られた物で、一見した所ミカヘリサウ属の如き感をあたへるが、精研して見ると、莢は廣鐘形、葉裏に腺點のある事などよりして、むしろシモバシラ属に近い事が明になつた、併し苞鱗の大な事はミカヘリサウ属に近い事を示して居る即ち本種はシモバシラに屬するが、その一面に於てミカヘリサウ属に近い事を示す種と考へられるが、ともかく一新種である事は確かである、それで此所に上記和名及下記の學名を與へる事にした。

**Keiskea macrobracteata** MASAMUNE sp. nov.

Hemicryptophyta. Caulis saepe simplex ca. 70 cm altus deorsum